

Winny とは？

60 回生 ぱんだ

P2P ファイル共有ソフト「Winny」を開発した男が、去年の5月に逮捕されました。これまで、そのユーザーが逮捕されることがあっても、作者が逮捕されたことはなかったために、「著作権法違反をほう助した」などとして刑事事件の対象になるのは世界的にも極めて異例。” などと言われ、一時期新聞の紙面を賑わしました。

しかし、その「Winny」というものについて、いったい何をするもので、何が逮捕の原因となったのか、よくわからなかった人もいるでしょう。そこで、今日は、ここでファイル共有ソフト（特に Winny）について説明してみようと思います。

ファイル共有ソフトとは？

元々、ファイル共有ソフトとは、“インターネットを介して不特定多数のコンピュータの間でファイルを共有するソフト。” のことです。つまり、簡単に言えば、同じファイルのある一つのコンピュータから、他のコンピュータへと、ネットワークを介してコピーするソフトというわけです。その際に、使用者は他人にあげていいファイルを設定し、そして他の人が同じように設定したファイルを検索してダウンロードします。その際に、著作権上コピーすることを禁止されているソフトや画像、音楽などを、違法にコピーする行為が頻繁に行われてきて、たびたび問題になって、時には逮捕者（使用者の中から）も出ていました。

種類には大きく分けて中央サーバ型と純粋型の2種類があります。前者は、接続しているユーザの情報やファイルのリストを中央サーバが管理し、利用者がその情報を元に、利用者間でファイルの交換を行うものです。これに対し後者は、情報を管理するサーバがなく、すべての情報を個々のソフトの間で管理する方法です。

Winny とは？

Winny は、ファイル共有ソフトの一つです。高い匿名性と、独自の P2P 型匿名掲示板システムが特徴です。Winny は中央サーバを持たない P2P ソフトで、所持ファイルのリストなどの情報は利用者間で受け渡しされます。ダウンロードできる最大数は送信数によって決まるようにして、たくさんのファイルをアップさせるようにしています。（要はたくさんのファイルをアップした人がたくさんダウンロードできる）

また、Winny で送受信するファイルは全て暗号化されています。

Winny の匿名性技術

Winny は高い匿名性を備えたファイル共有ソフトです。

Winny は、情報を個々のソフトの間で管理しています。その際に、間に PC を介しているために、どの相手からファイルを受信しているのかわからないのです。

「ん、そういうのなら、インターネットだって、コンピューター同士をつないでるんだから、通信時に間に PC が入ってるんじゃないの?」

と思うかもしれません。

確かに、通常の通信では、PC と PC 間で、IP アドレスというもので相手を判断してその相手に、ファイルなどを送る用に成り立っているので、その際に通信相手の IP 等もわかります。

しかし、Winny ではそうならないような技術が使用されています。

そのうちの一つを紹介します。

例えばここに、A という PC があるとします。A で Winny が起動されると、その IP アドレスや公開しているファイルの情報などは、他の Winny へと伝わっていきます。その際に、情報は、インターネットの回線の高速な方向へと伝わっていきます。そして、その情報は、高速回線を持つ PC へと伝わり、他の Winny から検索しやすいようになります。

そして、B という PC でそのファイル名で検索をかけたとしましょう。B で検索をすると、B から、検索以来メッセージが、他の Winny が動いている PC へと送られます。その検索依頼メッセージは、情報と同じように回線の早いほうへと転送されていきます。そして、そこでファイルの情報と持ち主の IP アドレスを取得して、メッセージを出した PC へと戻ってきます。

しかし、これだけでは匿名だとはいえません。相手の IP アドレスがわかるわけですから、最終的には一対一の通信となるわけです。

そこで、Winny は ”ファイルの中継(転送)” といわれる技術を使います。

A が公開した情報を、高速回線上の B が受け取ったとしましょう。そして、B からの検索も、C が受け取りました。その時、C は、B にファイルの情報を返しますが、その際に、ファイルの持ち主を C だと書き換えた情報を返します。その際に、A の情報は控えておきます。そして、B から C にダウンロードの要求が来ると、C は A からダウンロードして、それを B へと渡します。こうして A と B との間に直接の接続がないため、A も B もお互いのことはまったく分からないようになっているのです。

Winny の違法性

基本的に、普通の P2P ソフトは、使用しているだけなら、罪に問われることはありません。違法なファイルをアップしたりダウンロードしたりすることによって、罪に問われることもあります。

しかし、Winny は、ファイルの送受信が第三者により中継されることがあります。その際に、仲介となった PC には暗号化されたファイルがキャッシュとして残ります。そのため別の人がそのファイルを検索したときに、そのキャッシュが引っかかり、ダウンロードされることとなります。つまり、仲介者は、自分が気づかぬうちに違法ファイルの配布者となることもあるのです。この点が、Winny と他のファイル共有ソフトの違いです。

基本的に、どのようなファイル共有ソフトでも、違法ファイルを交換していれば、その当事者たちは罪に問われます。しかし、Winny の場合は、違法ファイルの交換を、ソフトウェアの側で行われることもあるのです。これが Winny の作者のみが逮捕され、

他のソフトの作者は逮捕されなかった理由です。

Winny の今後

Winny は作者が捕まったことにより、作者のページは閉鎖、公開も停止、開発も中止されています。これから先、裁判で Winny の違法性が認められたなら、使用するだけで罪になる様になることもありえます。

Winny の違法性については、いまだに議論が飛び交っています。Winny 開発者は今の著作権法に納得できずに、このようなソフトを作ったといいます。

確かに今の著作権法にはおかしいところもあります。しかし、だからといって、このようなソフトを作っているわけではありません。それは物を作る人間の立場に立てばわかることです。

Winny の技術にはすごいものがあります。

だからこそ自分は Winny 作者の方には、罪を認めた上で、もっと他の研究に力を入れてほしいと思います。